日本国憲法ってどこか間違ってるの？

９６条を変えて憲法を改定する狙いは何

日本国において、社会をつくる土台が憲法です。その土台をいつでも時の権力者が思うような形に容易に変えることができる仕組みをつくったらどうなりますでしょう。

日本だけでなく、憲法は簡単に変えることができない仕組みにしておくのが近代国家の在り方です。

「占領軍が作った憲法」だから変えると言ったりする人がいます。しかし憲法のどこが間違っていて、変えたいのでしょうか。

憲法９７条には「人権の永久不可侵」が記載。９９条には国会議員を含めて公務員に憲法の「尊重擁護義務」が課せられています。

自民党は「新憲法草案」をつくっていますが、その中には９７条を削除したり、９９条は擁護するだけにしています。そしてなによりも憲法９条を変えて、海外で戦争ができる軍隊を持ち、天皇の元首化、国民にはその憲法を尊重する義務を負わせるのです。そして改憲によって国民から自由を奪い、「公益や公の秩序に従え」と明治憲法時代の社会を目指しているのです。

それらがやりやすい「憲法改定」の条件である国会議員の「３分の２以上」の賛成を「２分の１以上」に変更しようとしているのです。

９６条改定に賛成されますでしょうか。

３月議会、総括質問と一般会計予算討論より

大塩市政の問題点

顕著になった開発優先市政

2013 年３月議会では日本共産党議員団を代表し、住田は市長の施政方針に対して総括的質問を行いました。

また、一般会計予算特別委員会に所属し、予算に対して質疑を重ねる中、「市民のための予算になっていない」として反対の立場を表明、討論を行っています。

今回は総括質問の一部要旨を報告します。

住田の質問・平和問題

非核平和都市宣言を行っている川西市長として、他都市と連携し、核兵器を地球上から無くすこと、あわせて憲法９条を守り、市民とともに平和都市を積極的に築くべきだ。

市長の答弁

日本国憲法は我が国の最高法規、私たち国民は憲法を遵守する義務があることから、憲法９条もしっかり遵守し、啓発も行う。

非核平和都市宣言を行い、世界恒久平和のため、被爆国として非核三原則を遵守し、核兵器の廃絶と戦争のない世界の創造を求めており、非核平和意識を高めていくよう取り組をすすめ、必要に応じて他都市とも連携をしていきたい。

参議院議員
山下よしき がお話します
５月１８日、土曜日
午後２時開始
アステビル６階・アステホール

よし **くらしの**
「由さん」の 便り
2013年 ４月 ３０８号

川西市議会議員(日本共産党)
住田由之輔すみだよしのすけ
連絡先･下加茂 1-24-23
ケイタイ090-9283-6739

市民への情報は住田のブログへ。「「由さん」のくらしの便り」か「住田由之輔」で検索

住田・安倍政権の国家戦略では地方財政が大変になる

市長・国の政策を有効に活用していく

住田質問・３本の矢、国家戦略について

金融緩和では物価が上がるだけで国民にとっては負担増。機動的な財政出動は国も地方も借金まみれになった大型公共事業優先政策。成長戦略の裏側は国民への社会保障削減政策であり、とても「国民のための経済回復」は見込めない。

市長答弁

国の機動的な財政出動で補正と合わせ１５か月予算となっており、景気回復最優先政策と認識している。しかし国の財政出動にすべて追従するつもりはなく、事業の内容など勘案し有効活用していく。

新規国債発行に頼った予算となっているが、赤字の解消と財政健全化に向けたものであろう。リーマンショック以降の経済で、企業の業績向上が労働者の働く環境を向上させるものであり、様々な景気対策は労働者が安心して働く環境整備につながっていると思う。

住田・税と社会保障の一体改革は。　***市長***・消費税引き上げは安定的な社会保障財源確保。

住田質問・税と社会保障の一体改革

消費税増税で地方の税収は一時的に上がるかもしれないが、増税で国民の所得が減り、生活困窮すれば消費も減って経済が衰退し、国も地方も税収が減ることになる。

年金の引き下げや生活保護基準の引き下げは他へもマイナス影響をする。

市長答弁

消費税の引き上げは、国・地方を通じて安定的な社会保障財源を確保するものだ。子育ての強化、貧困、格差是正を図っていくものである。年金を皮切りに医療、介護、子育てにかかわる社会保障の機能強化が図られるものであり、国と地方が推進することが一体改革だと認識している。

生活保護基準引き下げの件は十分な情報が入っていない。

住田質問・原発を即ゼロに

自然エネルギーへ転換すべきだ。

市長答弁

原発からの計画的撤退と再生エネルギーへの転換を図っていくべきと思う。

現在くらしも産業も一定原発エネルギーに頼っている。再生可能エネルギーへの転換も急激な付加や不安を与えることになり、段階的・計画的に行う必要があると認識する。

住田は４月２２日から２６日にかけて東北、**三陸沿岸の震災被災地を訪ねてみました**。昨年に続くものでが、海岸線の砂防・防潮堤で工事が進んでいるものの、護岸の改修、ましてや高台移転はこれからといった感じを受けました。

機会があればご報告させていただきますが、**住田のブログに一部を掲載**していますのでご覧ください。（写真はすべて被災地で撮影）